



藤枝の歴史



原始・古代

原始時代の藤枝〔約2万年前～1700年前〕

藤枝に人が住み始めたのは、今からおよそ2万年前の旧石器時代の終わり頃のことです。縄文時代には、海の幸、山の幸に恵まれた瀬戸川や大井川に面した丘陵上に人々が住みつきました。その代表的な遺跡が天ヶ谷遺跡です。また、弥生時代になると米作りが始まり、上藪田などの平地に大規模な集落や水田がつけられました。

古代の藤枝〔約1700年前～800年前〕

4・5世紀になると、畿内の大和政権を中心に国づくりが進み、市内でも4世紀の終わり頃に、時ヶ谷五鬼免1号墳・若王子12号墳などの古墳がつけられました。6世紀には、瀬戸や原などの丘陵に古墳群がつけられ、その数は約1500基にもなります。



若王子古墳群

奈良・平安時代になると、志太平野に志太郡と益頭郡が置かれました。二つの郡衙(郡に置かれた役所)はともに藤枝市内に置かれ、志太平野の政治・経済・文化の中心となっていました。

年表

6000年前〔縄文時代〕

旧石器時代の2万年前から、大井川や瀬戸川に面した丘陵上に人々が住みつき、広い範囲で交易が行われた。

2000年前〔弥生時代〕

稲作が始まる。収穫量が増え、生活が安定し、集落は丘陵上(現在の瀬戸・原・内瀬戸・谷稲葉)や平野部(上藪田・潮・郡)で営まれ、規模が拡大した。金属が使われ始めたのもこの頃。

1500年前〔古墳時代〕

4世紀ごろから古墳が造られ、最盛期の6～7世紀になると200～300基からなる大古墳群が造られた。原の荘館山にある前方後円墳や若王子古墳群は、有力な豪族の墓だと考えられている。

1000年前〔奈良・平安時代〕

法律・税制などの社会制度(律令制度)が確立し、志太平野には、志太郡と益頭郡が設けられる。「郡衙」と呼ばれる郡役所では、租・庸・調・雑徭などの税を徴収・管理する仕事が行われていた。

500年前〔戦国時代〕

花倉城、田中城をめぐり、戦国の武将たちが激しい戦いを繰り返す。藤枝の地は、今川氏から武田氏へ、その後、徳川氏へと支配者が変わった。

300年前〔江戸時代〕

藤枝は東海道の宿場に指定され、品川から22番目の宿場町として、また、田中城の城下町として発展した。大井川下流部では新田開発が盛んに行われ、農地が拡大した。幕末の開港以降は、お茶とみかんが貿易品として作られ、農業や商業が発達。

100年前〔明治～昭和初期〕

明治22年(1887) 町村制施行。国鉄藤枝停車場(現在のJR藤枝駅)が開設。

大正2年(1913) “軽便”の名で親しまれた藤相鉄道が開通し、藤枝は志太・榛原地区のお茶・みかんなどの特産品の集散地となった。

大正13年(1924) 志太中学校(現在の藤枝東高校)が創立。初代校長の錦織兵三郎さんが「蹴球(サッカー)」を校技として取り入れたことから、サッカーのまち藤枝の歴史が始まる。

昭和11年(1936) ベルリンオリンピックのサッカー競技に、松永行さんと笹野積次さんが出場。

藤枝市の誕生

昭和29年(1954)

1月 藤枝町と西益津村が合併し藤枝町となる
3月 藤枝町・青島町・葉梨村・高洲村・大洲村・稲葉村の2町4村が合併し、県内14番目の市制が施行

昭和33年(1958)

9月 認可を受け、市立志太病院を市立志太総合病院に

昭和38年(1963)

1月 藤枝東高校が全国高校サッカー選手権大会で初優勝

昭和39年(1964)【市制10周年】

10月 東海道新幹線が開通

昭和42年(1967)

1月 藤枝東高校が高校サッカー三冠(同一年度に高校総体・国体・選手権で優勝)
11月 市民グラウンドがオープン(県内初の芝生のサッカー専用グラウンドと野球場)

昭和43年(1968)

10月 メキシコオリンピックサッカー競技に富沢清司さん・山口芳忠さん・杉山隆一さんが出場し、銅メダルを獲得

昭和45年(1970)

7月 静岡鉄道駿遠線(軽便鉄道)全線廃止

昭和48年(1973)

8月 市庁舎が岡出山一丁目に移転 全国自治体職員サッカー選手権大会で藤枝市役所が初優勝

History of Fujieda

中世・近世

中世・近世の藤枝〔1185年～1867年〕

武家政権である鎌倉幕府が開かれると、京都と鎌倉とを結ぶ東海道はますます重要になりました。「藤枝」の名が紀行文などに出てくるのもこの頃からのことです。

室町時代には今川氏が一時、葉梨に館を構えたといわれ、また戦国時代には田中城を中心に武田氏、徳川氏の攻防戦の舞台ともなりました。

江戸時代に入ると、晩年を迎えた徳川家康が田中城に度々訪れ、城の周辺や志太平野一帯でしばしば鷹狩りを行いました。また、田中藩が志太平野の村々の大半を治め、藤枝宿・岡部宿は東海道五十三次の宿駅として上り下りの旅人でにぎわいました。



市指定文化財 田中城古図

近現代

近代・現代の藤枝〔1868年～現在〕

江戸時代に宿場町・城下町としてにぎわった藤枝は、明治時代になると、農業・商業を中心に発展しました。1889年に東海道線、さらに1913年に藤相鉄道が開通すると、お茶・しいたけ・みかんなどの特産物の集散地として、藤枝は重要な役割を担うようになりました。

藤枝市が誕生したのは、1954年のことです。1954年3月31日、藤枝町、青島町、葉梨村、稲葉村、大洲村、高洲村が合併し、藤枝市として市制を施行。高草山と大井川に挟まれた志太地域の都市として誕生しました。その後、国道1号や東名高速道路の開通によって、工業化や宅地化が急速に進み、県下の中堅都市としてさらに発展を続けています。2009年には、隣町の岡部町と合併し、人口も約14万人になりました。

現在、藤枝市は、フジとサッカーのまちとして、その名が全国に知られています。



昭和50年(1975)
7月 藤枝駅南口が完成

昭和52年(1977)
11月 初の名誉市民に山口森三・初代市長

昭和55年(1980)
10月 志太郡衙跡が国指定史跡となる

昭和59年(1984)【市制20周年】
11月 オーストラリア・ペンリス市と姉妹都市提携

昭和62年(1987)
11月 郷土博物館が開館

平成3年(1992)
6月 日本一の藤の里づくり事業がスタート

平成6年(1994)
3月 第1回藤の里ふじえだマラソン大会を開催
第1回全国PK選手権大会を開催

平成9年(1998)
7月 名波浩さん(当時:ジュビロ磐田)にスポーツ栄誉顕彰(第1号)を授与

平成14年(2002)
3月 藤枝総合運動公園が完成

平成15年(2003)
9月 国民体育大会「NEW!!わかふじ国体」夏季大会のサッカー競技(成年男子)を市内で開催
10月 同秋季大会の剣道競技・ライフル射撃競技を市内で開催

平成16年(2004)【市制施行50周年】
8月 アテネオリンピックの女子ソフトボール競技に佐藤由希さんが出場し、銅メダル獲得に貢献

平成17年(2005)
8月 静岡工業高校(当時)が夏の甲子園大会に初出場

平成18年(2006)
8月 藤枝順心高校が高校女子サッカー選手権大会で初優勝

平成20年(2008)
1月 第1回リパティ駅伝開催

平成21年(2009)
1月 藤枝市と岡部町が合併

平成24年(2012)
9月 新東名高速道路が開通。藤枝岡部インターチェンジ供用開始

平成26年(2014)【市制施行60周年】
4月 藤枝総合運動公園に野球場がオープン

平成29年(2017)
3月 「世界一長い花の列」ギネス世界記録®認定

平成30年(2018)
4月 藤枝市初となる市街地再開発事業で駅北口に「FUJIEDA mikine(フジエダミキネ)」がオープン
7月 長谷部誠さんに藤枝市民栄誉賞を授与

令和2年(2020)
6月 「日本初『旅ブーム』を起こした弥次さん喜多さん、駿州の旅」が日本遺産に認定

令和3年(2021)
8月 東京2020パラリンピックで佐藤友希さんが陸上男子400m、1500mで金メダルを獲得
9月 佐藤友希さんに藤枝市民栄誉賞を授与

令和4年(2022)
11月 藤枝MYFC J2昇格決定

令和6年(2024)
【市制施行70周年・サッカーのまち100周年】
1月 藤枝総合運動公園サッカー場に完成したバックスタンドをお披露目
7月 特設サッカーミュージアムが完成